

介護老人保健施設ライフサポートねりま

症例概要 利用者氏名: K様 80代 性別: 男性 介護度: 5

病名: 肺腺癌、脳梗塞

利用サービス: 入所

経過: 脳梗塞にて前院に入院していたが、肺腺癌もあり自宅に帰れる状況でない為、ターミナルケアとして当施設へ入所となる。

内 容

K氏は前院にて、昼夜を通して臥床傾向にあり、臥床中も体幹抑制をしていたとの事。入所当初、スタッフや周囲に対して心を開く様子が見られず、興奮し暴言やスタッフの腕をつねる、叩く等の暴力行為や意図的な車椅子からのずり降り行為、ベッドからの滑落や脱衣更衣、放尿などの行為が日々見られていた。また、面会に来られた奥さんの顔を見れば奥様に暴言を吐き、面会を出来る状況ではなく「いつ死んでしまっても覚悟ができています、今日はもう帰ります」との言葉で帰宅される日々が続いていた。このような状態の中、まずK氏の精神機能の安定を図る為、排泄パターンの観察やラウンドの強化を図り、主治医と相談しながら日々内服の調整を実施。また、リハビリや散歩、レクを通して日中の離床時間を確保し、ゆっくりと生活のリズムを整えた。そのような関わり合いの中、徐々にK氏の精神機能が安定した状態を保つことが出来るようになった。そのような中、K氏の誕生日が近づき、誕生日に何がしたいか希望を尋ねると「ラーメンが食べたい」との発言が聞かれた。誤嚥リスクが高く、STへ嚥下状態の再評価を依頼。K氏の誕生日にラーメンを食べるべく計画に対し、妻に相談を行った。妻は初め、K氏がラーメン等の麺類や形のあるものを食べるのは無理だと消極的で「この人には無理よ」と言う妻に対し、K氏は妻に妻との思い出の中華料理屋の中華ソバが美味しかったと語った。妻はK氏の理解力が向上していることに驚きながら、K氏のそのような言葉に嬉しそうに笑っていた。その後、妻の理解や協力を得て、安全に麺が摂取出来るようにVF検査を実施。そして、誕生日の日にNs付き添いの下、吸引が行える環境下にて粗刻みのラーメンが摂取出来ることとなった。そして妻が見守る中、K氏は誕生日に特別に栄養科が協力して作成したラーメンをムセる事なく摂取する事が出来た。また、妻が用意してくれたケーキ、コーヒーも食べる事ができ、笑顔で「美味しかった」との言葉を頂くことが出来た。奥様も非常に喜びを隠せない程の笑顔で「施設の皆さんの助けがあって本当に良かった」との言葉を頂いた。先日、K氏がこれまで拒否をしていた奥様であったが、職員が移乗介護をしようとした際にK氏から「あいつがもう少ししたら来るから来たらやってみよう」との言葉があり、奥様からも「最近私の事を待っていてくれるようになった、この施設に入れて本当に幸せです。以前とは違う気持ちでいつ病気で息を引き取っても何も言う事はありません」との言葉を頂いた。日々の関わりの中で、御本人らしさを徐々に引き出すことができ、ひいては奥様との関係性も良い方向へ大きく変化する事ができた事例。